

「日々の理科」(第 2270 号) 2020, -9, 29

## 「八ッ場ダムの水陸両用バス (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

現在のダム湖「八ッ場あがつま湖」は、西群馬地域の新しい観光地として人気が急上昇している。中でも「道の駅八ッ場ふるさと館」は、観光の中心的存在だ。かなり大きな駐車場があるのだが、週末の日中は満車状態で、人気ぶりがわかる。敷地内には、レストラン、物産展、野菜市、ソフトクリーム店などがある。ここからダム湖の上に架かる橋まで歩いて行け、橋の上から八ッ場ダムやダム湖の景観を楽しめる。



道の駅の駐車場の一角に、見慣れないバスのような大型車両が停まっている。あれが今話題の「水陸両用バス」である。珍しい車輛なので、周囲はいつも人で賑わっている。



これが水陸両用バスだ。確かに「上半身はバス、下半身は船舶」という感じに見える。小型飛行機のタラップのような出入口が非常に変わっている。乗客が乗り終わると、タラップは車内に収納される仕組みだ。



チケットは、道の駅内の案内所で購入できる。電話予約などは一切受け付けてくれない。ただ、朝のうちに午後の便のチケットも購入可能なので、私は自分の友人家族の計5名分を、朝のうちに買っておいた。大人3,500円となかなかプラチナチケットである。しかしその金額の価値はありそうだ。



水陸両用バスの名称は「にやがのはら号」といい、バスの前面・側面にかわいいキャラクターが描かれている。「にやがのはら」は吾妻郡長野原町の公式キャラクターで、人気者だ。浅間山、トウモロコシ、キャベツ等の野菜の帽子をかぶり、温泉のふんどしをしている。この車両は長野原町の所有ということだ。公道を走るので、当然乗用大型車両として登録されている。



同時にこの車両は、湖上では「船舶」となるので、船舶としても登録されていて、そのステッカーも貼ってあった。群馬は内陸県なので、これだけの「大型船舶」の登録は、榛名湖の遊覧船などを除けば、非常に数少ないだろう。